

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401194		
法人名	株式会社 柏菱		
事業所名	グループホーム エルムの家		
所在地	札幌市西区八軒5条東2丁目4-16		
自己評価作成日	平成22年3月23日	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>和顔愛語～思いやりの心を大切に～</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401194&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年4月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム エルムの家」はJR八軒駅から徒歩で5分程と交通の利便性も良く、商店などにも恵まれた静かな住宅地に位置している。管理者は今までの病院勤務などで得た経験を活かして、介護に対して熱い思いを持ち職員の指導や研修にも力を注いでいる。職員の定着率も良くコミュニケーションも深められ、職員がお互いに問題点を出し合って常に話し合う事でより良いケアができるように日々取り組んでいる。利用者一人ひとりの思いや意向を大切に個別の外出支援を積極的に行い、明るく家族的な温かいケアを心掛け、退所後も関係を継続するなど、利用者や家族との繋がりを大切にしている。地域との連携も深められており、事業所の夏祭りにたくさんの地域住民が参加したり、ボランティアで手伝いをしてもらうなど盛大に行われている。また、一人で買い物に行く利用者を地域の方が温かく見守るなど、利用者が地域の一員として生活できるように支えている。食事やおやつも利用者の希望を取り入れたり、一緒に作る事で食事が楽しめるように工夫している。ホーム内は職員や利用者の明るい笑い声が響き、利用者はゆったりと自分らしい姿で穏やかに生活している。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を、目に付きやすい所に掲げ、“和顔愛語”思いやる心を大切に理念実践に向け日々取り組んでいる。	新しい運営者の下、開設当初の理念を踏まえ、地域の人と一緒に暮らすという思いも込めて「和顔愛語」という独自の新しい理念を作成し、玄関などに掲示して申し送り時に確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方より ぶどう狩りに誘われることもあり、周辺散歩・買い物などで馴染みになって、町内会・商店街を含め交流に努めている。	町内会に加入してゴミ拾いに参加したり、エルム祭に地域住民を招待している。地域の人に一人で外出する利用者を見守ってもらったり、畑で収穫した野菜をお裾分けするなどの交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の散歩、近隣商店街との買い物の付き合い、町内会などの地域福祉関係者との連絡や支援関係を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の趣旨に基づき、2ヶ月に1回地域包括支援センターより2名、町内会長、地域の支援関係者と連携を図り運営に活かしている。	運営推進会議は、外部評価や防火安全対策を議題として取り上げ、災害時の利用者確認の名札作成の提案を受けて準備するなど、会議が日々のケアに活かされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催、西区管理者会議への参加、区グループホーム連絡会議での札幌市の行政連絡を受けながら運営に活かしている。	管理者は、研修会に関しての手続きなどで市役所を年数回訪問したり、西区管理者会議で区職員と意見交換などを行う事で、気軽に担当職員に相談できる関係ができています。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯を除き、施錠はしていない。利用者の行動を制限する行為は行わないことを徹底している。	職員は、身体拘束や虐待などについての研修会に参加し、排泄介助やベッドの柵、危険時の対応などについて日々話し合っている。玄関は夜間のみ施錠し、利用者が出かけようとした時は「車で送って行くから」などと個々に応じた対応で安全面に配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機会を確保して、職員の人権意識の向上や、知識技術等を修得して細やかな注意意識で見過ごされないように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などに積極的に参加しつつ、その都度において活用し支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族との話し合いの場を持ち、十分な説明及び、契約時には書類を読み上げ、理解・納得をいただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。 推進委員会の開催時に、意見要望を発言する機会を設け取り組んでいる。	家族の些細な意見も全職員が把握できるように記録して話し合いを行い、運営に反映させている。家族が訪問した時に一緒に食事をしてもらい、アンケートに記入してもらおう事で、家族の意見をケアに活かすように努めている。	家族が参加する行事の機会を利用して、家族だけで話し合う場を設けて率直な意見をもらい、更に運営に役立てるように期待したい。また、家族からの意見の記録方法を整理する事で、日々のケアに更に活かされるように期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議、3ヶ月に1回の勉強会など、常日頃から意見交換が出来る環境にあり取り組んでいる。	管理者は、日々職員に「お疲れ様」と声をかけて信頼関係を深め、職員の意見を積極的に取り入れようとしている。職員も、気軽に自分の思いや意見を言う事ができ、提案も前向きに検討してもらっていると感じている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	レクリエーション・食事会を催して下さる。ねぎらいの言葉を掛けて下さり、個々の声を聞いて下さる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会には、職員の多くが利用できる配慮をしている。 資格取得者には、昇給の機会がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・講習会などに出席する機会を作ってください、情報交換が出来、質の向上に対する意欲向上で職員一丸となり取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>御本人がしたい事、したくない事を、引き出す機会を作り、御本人の背景などを尊重し 慣れるまで見守り、あらゆる場でのコミュニケーションを大切に し、安心感を持っていただけるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>時間に関係なく いつでも訪問が出来、宿泊も可能である。慣れるまで思いやる心で声掛けをし、話しやすい雰囲気を作るようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ニーズを引き出し、御家族の身体及び精神的安定を第一に解決しなければならないケースも含め、カンファレンスを開き支援している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様の自尊心・誇り・経験・価値観を大切に し、思いを現実に合わせて出来るように 個々の得意分野を理解して利用者様の立場に立ち、経験を学ぶ支援をしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月 御家族に、御本人の様子を知らせる手紙を出し、小さな事でも連絡を取り信頼関係を築くようにしている。食事会を催し、一緒に食事をする機械を持ち、コミュニケーションを深めている。</p>		
20	8	<p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>毎月お手紙で、近況を御家族に報告し、関係が途切れないよう努めている。 日 常の会話の中に、昔話や家族の事をさりげなく取り入れコミュニケーションに努めている。</p>	<p>利用者の生まれ故郷に行きたいという思いを職員が送迎して叶えたり、馴染みの場所の訪問など、本人の希望に応じて家族と協力しながら個別支援を行い、関係継続に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎日、ティータイムやビデオ鑑賞で顔を合わせる場を設けている。 お誕生会で、皆でお祝いすることにより家族的な関係がとれる事につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様や御家族も 行事にお誘いし、エルム祭に参加されている。いつでも連絡を受け、相談に応じることができる。入院先へ訪問したり、法要に参加させていただいている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に 御本人を含めた話し合いを行い、フェイスシートを作成、毎月のケース会議でも一人一人について話しをして 希望と意向に添った支援を検討している。	会話による思いや意向の把握が困難な場合は、動作や表情から把握をしたり、今までの行動パターンなどの情報を職員間で出し合い、話し合いを繰り返す事で把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ホーム長・管理者と入居者様・御家族でフェイスシートを作成し、職員間で情報を共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の入居者様の様子を日記に記入し、活動内容や、発言・行動から心身状態と1日の活動の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に御本人と御家族からの希望を聞き、ケアに対する疑問があれば話し合いを行い、安全に楽しく生活することが出来る介護計画の作成をしている。	新規介護計画は、家族や本人、医療関係者からの情報などを基に、計画作成者、管理者、フロアーリーダーが作成している。3ヶ月毎に全職員で見直しを行い、身体状況の変化などに応じて随時見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日誌に記録し、月1回介護計画サービスに添ったまとめをしている。それを職員で共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は様々な研修会に出席し、常に新しい情報を手に入れ、御本人や御家族のニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にも 行事に参加してもらい入居者様との交流の場を作っている。散歩などで会った時はお互いに挨拶を交わし、入居者様が一人で出掛けられているのを見た時にはホームに連絡をくれる。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は御本人・御家族が自由に選ぶことが出来、受診連絡ノートと温度板で受診時以外の入居者様の状態も伝え 適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の継続は可能であり、家族からの報告や書面での連絡、直接医師に連絡を取る事で適切な医療が受けられるように支援している。内科医の他、歯科医の往診も随時行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りの時間の他、入居者様の体調に変化が見られた場合には その都度看護師に連絡して指示を受け、その内容を実施している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診連絡ノートを作成し、受診時には温度板を合わせて持参し Dr.との連携と情報交換を行っている。入院時にも、早期に退院できるように 看護師を中心に病院との連携に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、御本人と御家族の希望を聞き、それに可能な限り添った終末ケアをホーム長より説明していただき同意書を頂いている。	利用開始時に「看取り介護についての同意書」を作成して、事業所の指針を説明し本人と家族に同意を得ている。状況に応じて意向を繰り返し確認している。看取りも、数回行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員で 事例をもとに緊急時の対応、手当てに関する研修を定期的実施し事故発生に備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災についての社内講習訓練のほか、年2回の避難訓練、非難マニュアルを提示、さらに運営推進会議などでの地域の協力などが進められている。	スプリンクラーを設置し、1階に消防署への直通通報装置を整備している。昼夜を想定した避難訓練を年間2回行い、火災時の避難用にタオルを準備しているが、地域住民との避難訓練はまだ実施されていない。	運営推進会議などで再度災害対策について話し合いを行い、地域住民と共に避難訓練を行い、役割分担を明確にして、地域を含めた連絡網を整備するなど更なる地域との協力体制の強化を期待したい。また、災害時の非常食や備品を更に整備するように期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、常に心掛けておりケアプランにも提示している。	個人記録類はロッカーに保管し、第三者への情報提供について同意書を得ている。利用者尊重の介護を指針とし言葉遣いや対応に留意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行きたい場所や やりたい事、食べたい物などを入居者様と話して決め、レクリエーションや日常生活で実施している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の考えを押し付けることなく、その時の入居者様の体調や希望に合わせて、個々のペースで生活できるよう支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物で自ら選んで購入した服を着たり行事の時には化粧をするなど、おしゃれが楽しみの中になるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食事と嫌いな食事を表で作成し、食べられない食材は変更し提供している。毎食後、食器とお盆拭きを職員と一緒にやっている。	献立は職員が利用者の嗜好や希望を取り入れ和食を中心に作成している。食材の下ごしらえやおやつ作り、下膳、食器洗いなどできるところで職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の有無、水分量が温度板で すぐ確認できるようにになっていて、その時の身体状況に合わせた対応をおこなっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアと義歯洗浄を実施・歯科と連携しながら口腔内保清をお行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行った時間をチェックし、1人1人の排泄パターン合わせ・長時間間隔を空けずにトイレの誘導や声掛けを行うことができている。	排泄チェック表を用いながら利用者一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握し、前誘導や声かけを行っている。おむつなどの使用も常態化する事なく、排泄誘導などの工夫をしている。排泄後は清拭を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックし、排便のない日が続く場合は看護師と相談し、飲食物・運動などで対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	受診や外出の予定を考慮したり、利用者様のリズムに合わせて いつでも自由に希望に応じて入浴して頂いている。	日曜日以外の午後に入浴を設定しているが、利用者の希望や状態により柔軟に対応している。入浴日以外は足浴を実施している。重度の利用者用の入浴設備を設置している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の暗さや、テレビの音など入居前からの生活習慣を変えない環境作りを行い、時間についても強制することなく入居者様個々のペースに合わせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師と毎回連携を取り、薬の効果や副作用がないか、症状に変化がないか等の話し合いを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や時代劇のビデオ、職員との会話や外出など、興味を持ち楽しんで頂ける場を作り、気分転換が図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出の希望があった時には職員が同行し、買い物や食事・散歩など個々の希望に添った支援をすることが出来ている。</p>	<p>天候の良い日は散歩に出かけ、冬場はスーパーで買い物や外食をしている。出身地への訪問やカラオケ、ダンス、温泉、美術館、映画など一人ひとりの意向や希望を取り入れながら個別の外出支援にも取り組んでいる。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に出掛ける時には、入居者様自身で財布を持ち支払いを行っている。職員は、側で見守りながら必要な支援をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時には、いつでも連絡ができる。電話操作が困難な入居者様には職員が代行して電話をかけ支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安全に配慮しながら、居心地の良い空間作りができています。温度の調整をこまめに行い、リビングや廊下には季節に応じた装飾をしています。</p>	<p>リビングは対面式キッチンの広い造りで、ソファコーナー・ダイニングセットの他、身体機能に配慮したテーブルが置かれている。観葉植物や利用者の作品を飾ったり、玄関に花を生けて季節感を採り入れている。ユニット入口に除菌消臭噴霧器を設置している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者様が自由にその時の気分で、好きな位置で過ごせるようになっており、1人でテレビを見て過ごすことも、入居者様同士で楽しく過ごすこともできる。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れている家具や小物を置き、写真を飾るなどして居心地良い居室作りをすることが出来ている。配置は緊急時の対応を考え、御本人・御家族と相談のうえ決めている。</p>	<p>環境の変化に配慮して、入居時には使い慣れた馴染みの家具や生活用品を持ち込んでもらっている。趣味の絵画や手芸品、家族との思い出の写真などを思い思いに飾り、家族と相談しながら個性を活かした設えとなっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置、身体機能の低下を補うエレベーターの設置、床のバリアフリーを設置をしている。利用者様の状況に応じて環境を整備し、トイレやお風呂の場所をわかりやすく表示して 自立した支援をしている。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401194		
法人名	株式会社 柏菱		
事業所名	グループホーム エルムの家		
所在地	札幌市西区八軒5条東2丁目4-16		
自己評価作成日	平成22年3月23日	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット一階」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401194&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和顔愛語」～思いやりの心～を理念に持ち、利用者様と心と心のケアを目標としています。地域との関わりも推進会議を中心とした意見交換を行っています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が地域の中で生き生きと生活できる様、推進会議の場で意見交換を行っています。エルム主催の行事に地域の方をお誘いし交流を行っています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資源回収への参加、町内会・近隣商店等との付き合いを通し、支援関係を深めています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族・利用者様・地域の方・地域包括支援センターの方にも推進会議に参加して頂き、意見交換を行っています。意見を元にサービス向上を目指しています。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の管理者会議に出席し、必要に応じアドバイスを受け、実施しています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加するなどし、身体拘束をしないケアについて理解を深めています。身体拘束をしないケアを実践しています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部や内部の研修会を通し、虐待防止について注意を払い、ケアに取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その都度 利用者様に応じ、管理者や職員は対応・支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にホームの見学をして頂き、ホーム長・管理者・ケアマネージャー・ケアワーカーを交え面談をし、御本人や御家族への理解を得て入居して頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ第3者窓口のポスターを貼り、外部の相談窓口の連絡先を表示してある。 又、利用者様とエルムの家との話し合いの場を設けています。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から月1回の会議や勉強会など、意見交換が出来やすい環境にあり取り組んでいます。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況を確認して頂き声掛けして下さり、条件の整備に努めて下さっている。 また、職員に対し精神的な面を理解し聞いてくださる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を積極的に勧め、本年により全体会議においても勉強会を実施するなど向上に努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、勉強会に参加し、同業者との交流・サービスの質の向上に対し取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の送られてきた生活を理解し、御本人が慣れるまで職員の見守りやあらゆる場でコミュニケーションの場を作り、安心安楽な環境作りに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が来所された時はもちろん、電話連絡時でも、困っておられる事や不安を尋ね相談させて頂き、信頼関係を築いています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長・管理者・ケアマネジャー・ケアワーカーにて、カンファレンスを行い支援の話し合いの場を設け、御協力を得よう努めており、フロア全体で支援させて頂いている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の身体的及び精神的な状態を考慮し、レクリエーションやお手伝いに参加して頂き、共同生活する者同士の関係を築く工夫をしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と連携を深め、生活の中で御家族との時間をどの様に過ごして頂けるか、カンファレンスを行っています。それにより、御家族との絆を利用者様が実感出来る様な支援をしています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の送られてきた生活を理解し、御本人の希望を尊重し支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、身体的・精神的な状態を考慮した上で、関わり合いを持てる様な場の提供、又はレクリエーションの企画を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への訪問や、法要の際には、お花を届ける等行っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に添える様、カンファレンスを行い、思いや意向の把握に努めています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	利用者様の生活歴や馴染みを理解し、継続できることに関しては伝えるよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	つきに1回のケース会議やカンファレンスを行い、利用者様の現状の把握に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に、御本人・御家族と話し合う場を設け、御本人がより良く暮らす為の介護計画を作成しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や職員同士の連絡帳等を記録し、情報の共有を図っています。ケース会議を通し、介護計画の見直しにも活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に新しい情報を取り入れるよう努め、様々なニーズに応えられるように取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署指導の防災訓練や、警察への協力依頼を行っている。地域とも連携し、安全対策できる体制作りを行っています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医の往診等、各医療機関との連携・協力・体制ができています。納得できる医療を受ける支援ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、職員間での連携を図っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者と情報交換や相談を行い、早期退院を目指しています。入院中の利用者様が安心して過ごせる様、職員の面会を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、御本人・御家族と十分話し合い、終末ケア・看取りについて方針を共有する取り組みを行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を通じ、急変時の対応等を身につけ実践しています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、職員の防災意識の向上と、非難方法を身につけています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者様の人格の尊重やプライバシーの確保の大切さを理解し、言葉掛けや対応をしています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が易しい利用者様はもちろん、困難な利用者様に対しても、行動や表情などから感じ取り自己決定できるように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の生活リズムを把握し、見守りながら介助することで、御本人のペースで生活できるよう努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理・美容室の利用と支援を行い、御本人が希望のおしゃれを楽しめる工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	慢性疾患を持つ利用者様もおられるので、健康状態に合わせてDrに相談の上、調理盛り付けを工夫しています。又、一緒に準備や片付けも行っています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の身体状態を把握し、バランスの良い食事の提供をしています。水分確保が不十分な利用者様には、ゼリーで対応するなど工夫しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしています。	歯科と連携し指導を仰ぎ、口腔ケアに取り組んでいます。できるところは自力で、必要に応じ介助しています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導・介助を通し、自力排泄への支援を行っています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	Dr指示より、下剤の服用、調整を行っています。歩行運動や体操も行い予防に努め、食物繊維・水分に注意しています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に出来る限り合わせ、対応しています。リズムを理解し、入浴を楽しめる工夫をしています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔な寝具を提供し、週に1回交換をおこなっています。利用者様の好みの寝具を使って頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、目的・副作用・用法・用量を理解しています。看護師と連携し、変更時も必ず確認しています。症状の変化についても十分留意し、記録や申し送りを実施しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いやレクリエーション、リハビリ(運動)を提供し、メリハリのある生活を目指しています。嗜好品や楽しみを提供する場も企画しています。(外出レク・生花)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望に添った支援を行っています。一人で外出する際にも安全を確認しながら地域の人々と協力・支援できています。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物希望される時は、入居者様が御自分で財布を持参し支払いを行い、難しい場合には対応しています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は自由に使えます。困難な場合には職員が代行し支援しています。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアの壁などを利用し掲示を行い、季節感を採り入れ居心地良く過ごせるような環境づくりに取り組んでいます。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本人用の椅子を用意したり、ゆったりと過ごせるような居場所の提供が行えています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使用されていた家具や小物、使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地の良い居室づくりに配慮しています。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレやお風呂の場所などはわかり易く表示し、安全で自立した生活が送られる様に支援しています。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401194		
法人名	株式会社 柏菱		
事業所名	グループホーム エルムの家		
所在地	札幌市西区八軒5条東2丁目4-16		
自己評価作成日	平成22年3月23日	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット一階」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401194&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目に付きやすい所、来訪者の目に付きやすい場所、スタッフルーム等に掲示しているの で、日々の実施に結びつける様取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内回覧を利用して夏のエルム祭に気軽に参加して頂けるよう掲載し、館内も開放し交流の場となるよう心掛けている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内清掃に心掛け、資源回収にも協力させて頂いています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族・入居者様・地域の包括支援センターの方と、ホーム職員・町内会長さんにも参加して頂き、意見交換を2ヶ月に一度開催しています。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の管理者会議にすべて出席し必要に応じてアドバイスを受け実施しています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に記載しており、実際に拘束行為はありません。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段の利用者さんの生活パターン・態度を、家族に理解して頂けるよう声を掛けコミュニケーションを図り、職員は言葉や態度にも気をつけるよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各階に冊子を置き、勉強会にも積極的に参加し、その都度必要に応じ活用し支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から十分な説明を行い、理解納得をして頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、多くの方に出席して頂いています。意見や、要望を取り入れて、エルム祭などのイベント内容も決めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から意見交換がしやすい環境にあり取り組んでいる。行事決定も意見を聞き入れて頂いています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々各階に来て下さり、職場での実績や勤務状況を見て感じて頂き、個々の声を聞いています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を積極的に勧め、ホーム内でも毎日各階にて研修を行い、本年より全体会議においても勉強会をすることとなり実施中です。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交互に研修会に参加し、交流を持ち情報交換もできています。質の向上に対する意欲を持ち取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談より本人の希望を聞き、コミュニケーションを取り、安心感を得ています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が来所された時、一緒に食事をしたり、困っている事・不安な事など話しやすい場を設けています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネジャーを含めたカンファレンスの開催をしています。利用者様の背景を尊重し、本人と御家族を安心していただけるよう支援を行っています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のプライドを傷つけず 押し付けにならないよう、家族のような気持ちで状況を見極めた言葉掛けや支援をするよう心掛けています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度 家族と連絡を取り合い確認し、対応を行い支え合える良い関係を築いています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を大切に、個人レクを利用し馴染みのある場所等に対応しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中に、一人ひとりの尊厳を大切に、お互いの信頼関係を持てるように 職員が輪の中に入り支援につとめています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出しています。 法要の際には、お花を届けたり参加もしています。 エルム祭などの行事へのお誘いをしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添ったケアが出来るよう努め、プランの実行をしています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	自分らしさを大切に、今までの生活歴などを考慮したプラン作りを目指しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の特性や生活歴を把握した上でのADLの維持、向上に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や御家族が望む暮らしを実現する為、インテーク・アセスメント・ケアプランの 実施・モニタリングと一連のプロセスを繰り返し努めています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービス内容を毎日のチェック表として作成しており、介護者全員が意識を高めていけるよう実施しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・入院対応・送迎の対応・家族の宿泊・美容院・ドライブ・買い物等に対応し、様々なニーズに応えるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防火訓練を通じ、消防署と連携しています。運営推進会議とうに、町内会の方も参加していただく等、理解と協力を求めています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の内科の往診、希望機関への通院対応もしています。 薬局とも連携しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師出勤時には、体調等を報告し、受診時も密に連絡を取り、同行してもらっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各科、提携医療機関があり、入院時には職員が交互に訪れ情報を提供し、病院側から支持を頂き、長期入院にならぬよう協力しております。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に十分な説明をしており、ターミナルケアについても家族等と十分話し合いを行い、同意書も記入して頂いています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職員全員参加の会議及び、研修を行い、急変時とうに備えての対応を訓練・実践しています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全階あげでの避難訓練や、各居室にわかり易く色別し非難マニュアルを作成し、職員の意識を高めています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や気分に合わせた言葉掛けをし、誇りを傷つけないよう取り組んでいます。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれに適した言葉掛けをし、本人の希望等を言い易いような雰囲気作りを心掛けています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活のペースを大切にし、思いや意向に添った生活介護に取り組んでいます。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や、レクリエーションの時など、お化粧していただいたり、定期的に髪のカットやカラーリングを実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや食べやすさなど工夫しながら、職員も入居者様と同じ食事を和やかに語らいながら一緒に食べています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの咀嚼・嚥下等の状態に合わせた食事・水分を心掛け、一日の水分や栄養バランスに配慮しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがいの施行及び、義歯を洗浄し清潔を保っている。定期的に歯科往診を依頼しています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの普段の排泄、リズムに配慮し、スムーズな誘導等の取り組みで、排泄の自立支援やおむつの使用量を適切に保っています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に配慮した飲食物の工夫や、個々に応じた腹圧マッサージ・運動などを行い、便秘予防と改善に対応しています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に一番配慮し、なおかつ入浴を心からリラックスして楽しめるよう、順番や入り方の工夫にも心掛け取り組んでいます。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や睡眠パターンを把握し、1日のリズム作り・安眠対策に取り組んでいます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員は、入居者様の日々の体調変化を申し送りし、又医療連絡ノート等を参照しながら 症状や服薬の変化にも対応しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の個性や趣味を活かした個別のレクリエーションや楽しみごと等で気分転換をしたり、力に応じた役割などで生きがいのある日々を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望を尊重し、安全を確認しながら職員が同行しています。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分での管理が難しい方が多いので、ホームでお預かりした中で、一緒に買い物へ行ったり対応しています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は自由にできます。又、居室につけられている方もいます。手紙もその都度、手渡しています。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内の壁を利用し、利用者様の作品を貼ったり、行事の写真を掲示する際には、御家族にも了解頂き楽しんで頂いています。又、その都度季節感を盛り込んで、お花等も変えています。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本人用の椅子を用意したり、ゆったりとした雰囲気作りをしています。また、個々に趣味を楽しんで頂いています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使われていた家具や小物を、今までと同じように配置し、対応しています。落ち着いて過ごせるよう、配慮しています。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>環境整備を行い、事故のないよう常に配慮し、トイレやお風呂の場所などわかり易く表示し、床は、バリアフリーになっています。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホームエルムの家

作成日：平成 22年 4月 30日

市町村届出日：平成 22年 4月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・地域とのコミュニケーションは良好だが、町内会は高齢者や病気の方が多いのが現状。	・エルムの家と町内会・地域と、お互いより一層協力できるよう手助けをしていきたい。	・町内に在住する高齢者、病気の方への支援等に対し、直に何か手助けが必要だと思う。 ・出来る役割を今後明確な答えを出し出来るだけ協力する。 ・町内会の方々が気軽にホームへ出向いていただく。 ・話し合う場を多く持つ。	3~6ヶ月
2	4	・運営推進会議を活かした取り組み。 ・防火安全対策、災害時の連携。 ・入居時より利用者のALDの低下。 ・地域住民の高齢化。	・地域、家族に現実を理解してもらう。 ・協力体制を築きたい。	・町内会長より、町内100世帯中7割が高齢者で、災害時に連絡が来ても手伝えることは無理とお話がありました。よって、今後災害防火対策への取り組みを改めて検討する。 ・町内会の会議に出席し、理解を深めたい。	1~3ヶ月
3	10	・家族のみで話し合う場を設けていない。 ・家族からの率直な意見をもらうが記録をしていない。	・家族からの率直な意見をもらい、日々のケアに活かす。 ・記録をする。	・4/24の運営推進会議の席で、家族会発足について話を進めた。 ・家族会発足の運びとなる。	1ヶ月~長期
4	35	・災害時の不十分な非常食、備品について認識が薄い。	・十分に用意をする。	・非常食を場所を決め用意し、揃える。 (水・食品・タオル・毛布等) ・点検し、食品・水を交換する。	1ヶ月~長期
5	1	・理念 和顔愛語(わけんあいご) ~思いやりの心を大切に~	・理念にそい、この気持ちを忘れることなく、日々支援に努めて参ります。	・職員一人ひとりが、常に理念を心にしっかりと抱き、心穏やかに介護支援に務める。 ・職員もお互いにより良いコミュニケーションを図れるよう努力したい。	長期

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。